



江戸時代  
の  
生活  
史  
巻  
之  
一  
仲

城 9  
386  
4





















のりくか男女とも胎ころりてこれより

胎の形體の流

○婦人胎ありといふは胎偏り者安者傷と稱じ  
るあり妊婦一月の胎ありといふは二月の胎あり  
といふは三月の胎ありといふは四月の胎ありといふ  
は五月の胎ありといふは六月の胎ありといふは七月の胎あり  
といふは八月の胎ありといふは九月の胎ありといふは十月の胎あり  
といふは胎の形體の流ありといふは胎の形體の流ありといふは胎の形體の流あり  
胎と推察するもこれ胎の形體なり論よりてみる









の子宮の病を治すに月を止めざるに治すに難し  
八重を治すに月を止めざるに治すに難し  
なれた陽のぼるに治すに難し  
月を止めて腹痛を治すに難し  
治して療治するに月を止めて治すに難し

○虞文氏の説は月を止めて治すに難し  
は屬するに月を止めて治すに難し  
月を止めて治すに難し  
血を止めて治すに難し  
と云ふに難し

この時の子の胎作を治すに難し  
の婦人の病は月を止めて治すに難し  
た弱よして血を止めて治すに難し  
長を治すに月を止めて治すに難し  
と云ふに難し

○五難は胎十月にして治すに難し  
これら七月中にして治すに難し  
せらるるの病を治すに難し



老子八十一篇のてし生れ馬皇法う内ららむひの  
八篇のてしよとまほひを子長人のてしをを變のて  
りてんごうらりと舞のてしと詩書とてし世傳と  
堯は十四月のてし生れをたまの堯の最の世人十  
月よして壽じらたなり莊子の舞天下とておこ先  
て民らうて十月よして子と壽とてのてせをり  
披神化よ黄帝の母の附実らうてじり二十月  
よして帝と生しそまの魏思の堯半卷人ら  
じと六月よして産と博物志の僚人からうて七  
月よして生はと裁をりこれ皆人のての變らうて  
ぬとて論のていひのてらるる

⑤ 逐月胎と産の況

○小齊の徐之文の從一妊娠一月と胎胎とては付く  
是の厥後肝經の脈の中と肝を爲とつて  
るなれと二月の必ありとてはつてはつて  
おとてつてつては安胎とておそれつて  
と禁とて一妊娠をて二月の四つてはつて  
胎とてはつてありとては毎月の經水とらさ  
ぬとて血下つてつてはつてはつてはつて  
とてはつてはつてはつてはつてはつてはつて  
幸物と食とてはつてはつてはつてはつてはつて  
つては







冬にさるはつゝは

○妊娠四月らうめく水精より血脈をなすは母の  
少陽の脈のやうな少陽の血をうつゝは四月  
の時兒上の脈は和められたる形体とさるはりよ  
心志と和柔せしめ飲食と節よはつゝは搦種減食  
一真厚と食と一一の少陽の脈のやうな  
よ針灸とつゝは

○妊娠五月始く大指よりうろてたまふは助と  
要くかゝるは活して衣とあつゝは居而と深し  
を衣服とあつゝは一足の太陰の脈の中を  
四月の時兒上の脈は和められたるは錢らりやうな

飲りたまれ乾燥のやうな食をゆるめたるは勞倦と  
るはそれ縮衰と食一足の太陰の脈よ針灸は  
とつゝは

○妊娠六月始く金精よりまてたまふは胎とさるは身す  
く勞倦と節よはつゝは和められたるは觀とつゝは  
ろ一一の少陽の脈のやうな六月の時  
兒上の脈は和められたるは六月の時  
これと節のやうな少陽の脈のやうな  
針灸とつゝは

○妊娠七月らうめく本精よりまてたまふは胎  
屈伸して血をなすは居而必煖よとつゝは











苦難しとて脾胃を損とらありといふ人も胎禁の茶  
とや味しつゝと恐るゝといふ人も今醫統の  
せり

○素問六元紀大論婦人重身毒之必行曰有故無  
損亦無損やと云りけり人の婦人胎孕ありて或  
えより積聚のやまひあり或は熱病温瘧のそ  
ひ或は湯食子のそまひの暴病の時と治とる茶  
これ胎禁の類とて隨胎のうれありてこれをも  
これと用てそのやまひと治とるは胎平安の  
もやまひとれらるるもこれ胎禁の茶類の類  
とすつゝもなればありて胎を和とるゆれ

これと和れば損とらるゝと云ふは胎を和とる  
せらばのそまひに胎中の血を損せらるゝの類と  
下り文の大積大聚と和とるゝと云ふは胎を和とる  
とらるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
一と云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
胎を和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
と云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
の暴病ありて胎を和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
一と云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる  
と云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とるゝと云ふは胎を和とる



必<sup>かならず</sup>中<sup>ちゆう</sup>より九<sup>く</sup>姓<sup>せい</sup>婦<sup>ふ</sup>二月<sup>にがつ</sup>より一月<sup>いちがつ</sup>の間の胎<sup>たい</sup>守<sup>し</sup>の  
 まこと微弱<sup>じゆうじやく</sup>なれば胎<sup>たい</sup>禁<sup>きん</sup>の刻<sup>とき</sup>を用<sup>もち</sup>らば子<sup>こ</sup>を禁<sup>きん</sup>じ  
 去<sup>さ</sup>る九月<sup>くがつ</sup>よりこれを胎<sup>たい</sup>守<sup>し</sup>や健<sup>けん</sup>剛<sup>かう</sup>なれば子<sup>こ</sup>を禁<sup>きん</sup>じ  
 のんくもあつり傷<sup>やう</sup>腐<sup>ふ</sup>の刻<sup>とき</sup>あつり用<sup>もち</sup>てや害<sup>がい</sup>な  
 ろ一<sup>いち</sup>一<sup>いち</sup>政<sup>せい</sup>和<sup>わ</sup>年<sup>ねん</sup>中<sup>ちゆう</sup>一<sup>いち</sup>一<sup>いち</sup>暮<sup>く</sup>る旨<sup>旨</sup>とらふ女<sup>に</sup>の妹<sup>あな</sup>婦<sup>ふ</sup>ら  
 とありて満<sup>まん</sup>月<sup>げつ</sup>十月<sup>じゅうがつ</sup>より陽<sup>やう</sup>症<sup>しやう</sup>の傷<sup>やう</sup>をよむわ酒<sup>しゆ</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>を醫<sup>い</sup>あつりまつて胎<sup>たい</sup>の腐<sup>ふ</sup>んやとあつりて氣<sup>き</sup>を涼<sup>りやう</sup>  
 の葉<sup>え</sup>を用<sup>もち</sup>て痛<sup>いた</sup>りんとあつりし後<sup>ご</sup>院<sup>いん</sup>とらふ氣<sup>き</sup>を涼<sup>りやう</sup>  
 めして治<sup>ちやう</sup>らむとこれよりあつりていとく児<sup>こ</sup>胎<sup>たい</sup>の處<sup>ところ</sup>  
 十月<sup>じゅうがつ</sup>までは生<sup>な</sup>れんとあつりければ葉<sup>え</sup>をよむ胎<sup>たい</sup>をよむ  
 多<sup>おほく</sup>んとあつりて氣<sup>き</sup>を涼<sup>りやう</sup>の刻<sup>とき</sup>を用<sup>もち</sup>らば子<sup>こ</sup>を禁<sup>きん</sup>じ  
 四<sup>よ</sup>十三<sup>じゅうさん</sup>





思ふれしらせれ痛を癒せしむる薬は志よのせり  
○梅英の花も期よこしきものく聲せんと欲し  
との血と涼しめし胎もとんとし期は後れて  
産せしめとの血とあしあし身と胎としし  
とと肝要とほしり

○女人胎とあしんと欲して或は草葉と胎し或は乳  
棘熱毒乃れおと食し胎痛して胎墮んとほしよ白  
扁豆一味濃煎汁或は細末とれして二錢と胎とを  
よまきとるしありし胎もあし後胎痛つよしよ用  
てとるしあり或は胎守しよとあしして兜肉よ傷  
損し或は古種つよ白禁よ足播搗中風よ胎とるよの

九死一生の薬ありこれとて風をれして治せれし  
赤と白扁豆のく念しと水煎方よのせり  
つよし胎ありしめよい方とせりしよよ熱して動  
あり毒茶と胎とれしよとて胎腹中よあり  
てなやまよよと胎墮しての胎よ胎痛しよよ  
よこれと用るよと毒と解して平余とあかりけ  
方い草方よとて常人も用金はよ茶に  
まよしとらして害のなしよ茶のなるゆよよ  
まよし

○妊婦痛し十月たよ茶と胎とてし痛の付  
るやむしよと茶と胎とてし痛の付







りしころより一いつくさぬのりゆと持書とて  
新目の持脈とて診せし先とて一一條産成の産後  
の治療とての醫せし先とて一はたしるのりゆと  
はたしる

⑤ 妊婦産園并林糸祝の祝

○本年聖恵あり妊婦は月日の朝日に産園一本とて  
して未とて書付産園のわけ壁に貼りて置く  
一と裁そり産園といは方じ隅の方迄とて  
八卦とての法守十三神糸の方生守方獨害月終  
命が懸り方何肚方八法あり月安産方産成の  
るしと海くり吉高ありこれ妊婦の年命成産成

川合で方角とて一未とてこれとて一産園の  
の壁に貼りしころより一いつくさぬのりゆと持書とて  
新目の持脈とて診せし先とて一一條産成の産後  
の治療とての醫せし先とて一はたしるのりゆと  
はたしる

家とて書つてとて傳りて候儀とてのまのりゆと  
はたしる



あり婦人のごまう信用らるゆゑなをむじや  
 名目してらるゝと人累とらるゝとらんよと  
 るたより

○安産方産むのあり安産此方と産婦といふ  
 一め或は産婦の産帳とやらんとらるゝと  
 安方といふ産帳といふとらんよとらんよと  
 月六の陽月より西の方より甲の産婦といふ  
 西の位より産帳といふとらんよとらんよと  
 とらんよとらんよとらんよとらんよとらんよと  
 よあり甲の方より産婦といふとらんよとらんよと  
 とらんよとらんよとらんよとらんよとらんよと









れ六月寅卯の朔日ありつらるる也わたりて日辰  
じの朔日よありつらるる月されは百年来の朔日  
ありつらるる月されは日申酉の朔日よありつら  
るる月されは二月辰未の朔日よありつらるる月され  
二月よりつらるる月されは九月未申の朔日よありつら  
上下の神祇よりつらるる日辰ありつらるる日辰  
至觀のそらつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
他つらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰  
思夫のそらつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
かつかつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰  
つらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰

よも御書書きつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
外体よつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰  
なつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
のり字九筆をつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
いはれり方後よびつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
先つらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
のり字九筆をつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
なつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰ありつら  
○陰陽家の流は姓名の年月の日期とてつらるる日辰あり  
是れを二十八の七日二百六十日よありつらるる日辰ありつら  
つらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰ありつらるる日辰

















多し葉餅の魚茶の肉は同葉とらるる合せてる方  
 して東垣先生の本に活魚湯（方）の蘭室（方）といふ方あり  
 といふことにてるをよめ葉方なりといふ葉方魚茶の  
 陳中（方）よそくとしててよ員合（方）とてしをる方  
 産後ハ魚脱して身有しぬく同くこれハ同の  
 振葉未丹葉茶ハ産後一切の悪症と療とるなり  
 是も産後ハ産後ハわれとて身の醫作よあせてお  
 流して用てるなり  
 ○安神散産後の薬つけよしは方ハ醫學入門  
 怔忡（方）ハ妙香散とてる方ハ鹿茸白とてる方ハ葉  
 餅なり葉餅ハ魚茶とてる方ハ葉とてる方ハ葉後



一月のりやと撰とるる聲後記のりやと撰とるる  
或は小便人便するとのりやの筋用するものりや  
或はとのりやと撰とるるものりや

○清血散の神效清血後血いもつては或は胞衣  
りしては腹痛血暈して人車とるるものりや  
い清後十八証と治する薬は三方より清血と去積  
血と生じるとる薬のりや清後けお癒の癒をい  
りくの醫を清後いよ載とるる書一巻といふものり  
○失知散清後血痛痛散と治するものりや  
り清後け腹痛いものりや清血のりやといふ  
方より癒血と去るものりや

○朝鮮人参新好するものりやとるるものりや  
脱血散のりや独奏湯人參一味とと用されしものりや  
さゆよのりや清血散といふものりや清血湯といふ  
いものりやとるるものりや人參を積み分りて錢と一貼と  
るものりや

○陳蔡器のりや海馬の南海よおる形ものりや  
とるものりや可難のりやいものりや清血散のりやといふ  
よきものりやとるるものりや清血散のりやといふ  
清血散のりやとるるものりや清血散のりやといふ  
清血散のりやとるるものりや清血散のりやといふ  
清血散のりやとるるものりや清血散のりやといふ



○子母秘録（秘録）は槐枝（槐）東方（東方）より（東方）まき（まき）杖（杖）と（杖）り（杖）く  
産婦（産婦）の（産婦）子（子）は（子）振（振）り（振）し（振）れ（振）ば（振）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
又（又）日（日）華（日）子（日）の（日）尻（尻）の（尻）産（産）む（産）る（産）の（産）葉（葉）は（葉）槐（槐）實（實）を（實）七（七）粒（粒）と（粒）の（粒）ま（粒）は  
く（く）む（く）れ（く）ば（く）必（必）ず（必）産（産）む（産）と（産）り（産）く

○神（神）切（神）皇（皇）后（后）三（三）韓（韓） 中（中）邊（邊）法（法）法（法）海（海）女（女）あり（女）て（女）産（産）む（産）る（産）は  
前（前）國（國）糴（糴）を（糴）那（那） 坂（坂）田（田）と（田）り（田）て（田）白（白）皇（皇）子（子）は（子）産（産）む（産）る（産）則（則）八（八）  
情（情）大（情）神（神）是（神）る（神）り（神）て（神）時（時）槐（槐）木（木）の（木）枝（枝）は（枝）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
由（由）平（平）産（平）む（平）る（平）一（一）と（一）り（一）て（一）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
え（え）る（え）り（え）て（え）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く 國（國）信（信）と（信）り（信）て（信）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
ら（ら）り（ら）て（ら）諸（諸）國（國）は（國）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く 白（白）皇（皇）后（后）の（后）時（時）は（時）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く

と（と）り（と）て（と）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
ら（ら）り（ら）て（ら）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
そ（そ）と（そ）り（そ）て（そ）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く

○産婦（産婦）條（條）月（月）は（月）父母（父母）の（父母）家（家）に（家）あり（家）て（家）産（産）む（産）る（産）

○婦人（婦人）遇（婦人）事（事）産（産）む（産）る（産）は（産）天（天）竺（竺）の（竺）俗（俗）禮（禮）と（禮）り（禮）て（禮）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
父母（父母）の（父母）國（國）に（國）あり（國）て（國）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
く（く）る（く）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
是（是）い（是）ま（是）る（是）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
静（静）ま（静）る（静）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く  
お（お）よ（お）と（お）り（お）て（お）産（産）む（産）る（産）は（産）産（産）む（産）る（産）と（産）り（産）く







